

福井の幕末明治 歴史秘話

<第17号>

平成28年9月16日発行

せご 西郷どんと交流を深めた幕末明治の福井の先人達 ～橋本左内編～

平成30年のNHK大河ドラマ「西郷どん」の主人公西郷隆盛は、薩摩藩士で明治維新の三傑に数えられる人物です。今回から西郷と当時の福井の先人達との関わりを取り上げていきます。第1回は、西郷と橋本左内の関わりです。

薩摩藩主島津斉彬とともに江戸へと出府し、薩摩藩の「御庭方役（情報収集係）」となった西郷隆盛（当時29歳）は、安政2年（1855年）12月に、福井藩士橋本左内（当時22歳）と、薩摩藩の江戸屋敷で初めて会います。左内は国事について意見を交わそうと西郷を訪ねました。その際、こんな逸話が残っています。左内が部屋を訪ねた時、西郷は縁側にいて若い者に相撲をとらせていました。西郷は、小柄で楚々たる左内を一目見たものの、相撲が終わるまで待たせたそうです。左内は対座した際、「私は、あなたと国の大事について意見を交わしに来たのに、放っておくとは何事か。」ときっぱりと言いました。続いて、「攘夷ではなく開国して国の力を強くすることが必要だ。」と、広い知識と深い洞察を示しながら語りました。西郷は左内の見識に驚き、これからも指導願いたいと、心から頭を下げたと言います。

翌日、西郷は正装し福井藩邸を訪ね、前日の無礼を詫びます。後日、西郷は「私は先輩では水戸の藤田東湖氏、同じくらいの年齢では橋本左内氏が立派だと思う。この二人の学問や人の大きさは私の到底及ばないほどだ。」と述べています。

その後、安政5年（1858年）から、二人は将軍の後継者問題に奔走します。当時、将軍家定の後継者を巡り、一橋派と南紀派に分かれた政争が生じており、薩摩藩と福井藩はともに一橋慶喜擁立を目指していました。西郷が左内に宛てた直筆の書状（福井市立郷土歴史博物館保管）では、将軍の正室となった斉彬の養女篤姫を動かして問題を解決しようとする内容が記載されています。大奥からの情報は、篤姫→生嶋（篤姫付老女）→江戸薩摩藩邸、さらに、西郷を通じ左内から松平春嶽へ伝わったと言います。

西郷隆盛は、明治10年（1877年）9月、西南戦争で自刃しますが、カバンの中に左内からの手紙が入っていました。それは、安政4年（1857年）12月14日付けの手紙で、一橋慶喜に関する報告書でした。20年前の亡友の手紙を死ぬまで肌身離さず持っていた西郷。左内は、西郷の最も敬愛する友人となっていたのです。二人の心の結びつきを窺い知ることができるエピソードです。

<参考資料>『橋本左内言行録』の左内伝

～幕末ふくい歴史紀行～ [左内公園]

・安政の大獄により26歳の若さで命を落とした橋本左内。その遺徳を顕彰するため、設けられた左内公園には、橋本左内とその両親の墓があります。敷地内にある左内の銅像は市民からの寄付により、昭和38年に建立されたものです。

【住所】福井市左内町7

（JR福井駅よりコミュニティバス足羽方面行き乗車。愛宕坂下車。東へ徒歩2分）



左内公園

★お知らせ 公開講座「福井藩と二人の“まれびと” 大政奉還に影響を与えた横井小楠と坂本龍馬」を開催！

- ・明治大学との連携講座として、11月20日（日）、駿河台キャンパス（東京都千代田区）で開催（13:00～15:30）
- ・小楠と龍馬がいなかったなら、勝海舟や西郷隆盛など多くの人々が道に迷い、明治維新の実現は遅れたと言われています。二人と福井藩の関わりや明治維新へとつながる大きな転換点に思いをはせてみましょう。

【お申し込み】明治大学リバティアカデミー事務局（TEL 03-3296-4423 URL <http://academy.meiji.jp>）